

# 「耐震基準の相違がもたらす課題と施設全体の安全性照査の必要性」 セミナー

主催 公益社団法人 日本地震工学会  
(システム性能を考慮した産業施設諸機能の耐震性評価研究委員会)

## 趣 旨

原子力発電所、高圧ガス施設、化学プラント等の生産施設は、建屋、製造設備、ユーティリティなど、各種の設備や機器で構成されている。ところが、耐震設計の基準や指針は異なり、また耐震検討は個別に行なわれているため、建屋、製造設備、ユーティリティ設備などの耐震裕度は一律ではなく、弱い要素の被害によりシステム機能は停止するという盲点がある。これは、近年の被害事例を鑑みても明らかである。

本研究会は、産業施設の機能を建屋、製造設備、ユーティリティ設備などが連なったシステムとして捉え、工場あるいは施設総体としての安全性を確認する、新たな設計法・評価法に結び付く提言を行うことを目的に設置した。本セミナーは、3年間（平成26年4月～平成29年3月）の活動の成果報告として、特に、耐震基準の相違がもたらす課題と施設総体の安全性照査の必要性、さらに具体的な方法について、事例とともに解説する。

1. 日 時：2017年5月26日（金）13時30分～17時

2. 場 所：田町スクエアビル 会議室D 東京都港区芝5-26-24  
(建築会館の左隣のビルの会議室です。)

## 3. セミナープログラム

- |             |                            |                 |
|-------------|----------------------------|-----------------|
| 13：30～13：40 | 趣旨説明                       | 高田一委員長（横浜国立大学）  |
| 13：40～14：10 | 生産施設の被害事例<br>ー近年の被害地震を対象にー | 古屋 治委員（東京電機大学）  |
| 14：10～15：10 | 各分野における設計用地震動の相違と課題        |                 |
|             | 建築物および設備                   | 境 茂樹委員（安藤・間）    |
|             | 高圧ガス施設                     | 大嶋昌巳委員（千代田化工建設） |
|             | 港湾・空港施設                    | 中村孝明委員（篠塚研究所）   |
| 15：10～15：30 | 休憩                         |                 |
| 15：30～16：50 | システム性能の評価事例                |                 |
|             | 輸送経路（道路）を含む生産システム          | 三浦耕太委員（大林組）     |
|             | 上水道システム                    | 馬場啓輔委員（NJS）     |
|             | 石油精製プラント                   | 静間俊郎委員（篠塚研究所）   |
|             | サプライチェーンを考慮した生産施設          | 鳥澤一晃委員（鹿島建設）    |
| 16：50～17：00 | 閉会の挨拶                      | 新谷真功委員（福井大学）    |

4. 参加費

会 員：3,000 円、学生会員・学生：1,000 円、非会員：4,000 円（報告書代を含む）

5. 定 員：50名（先着順）

6. 申し込み方法

- (1) 別紙の申込書により、電子メールまたは Fax でお申し込みください。
- (2) 受講料は当日持参してください。

【申込み、問合せ先】：日本地震工学会事務局  
〒108-0014 東京都港区芝 5-26-20 建築会館内  
電話 03-5730-2831、Fax 03-5730-2830  
電子メール office@general.jaee.gr.jp